

■対象石垣

重要文化財宇土櫓続櫓下石垣

■これまでの経緯

【2018平成30年度 文化財修復検討部会】

- ・(10/18) 続櫓下石垣(西面)は積み直しを含めた復旧を検討

【2019令和元年度 石垣・構造合同WG及び石垣・構造・建築合同WG】

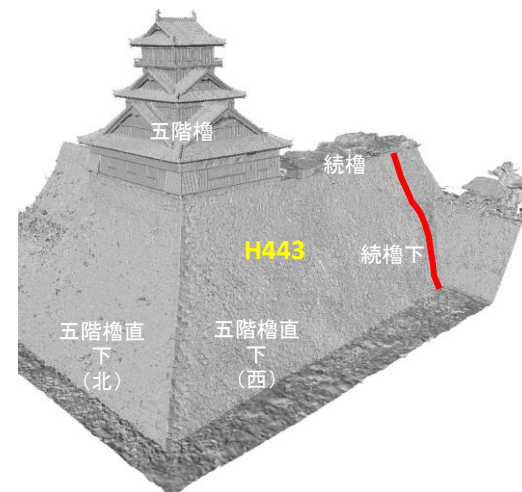
- ・(7/12) 続櫓周辺石垣履歴・被害状況の提示
- ・(12/25) 続櫓下石垣の復旧措置は盛土ではない非解体工法を再検討する
- ・(3/26) 続櫓下石垣の方針を合同WGで検討し直す

【2020令和2年度 石垣・構造・建築合同WG】

- ・(7/3) 続櫓周辺石垣:解体修理が必要(H443上部・H446・H456・H458・H461)
- ・(10/9) 続櫓下石垣:外部補強(鉄骨等の構造物)＋上部解体修理で承認
- ・(12/15) 続櫓周辺レーダ探査・発掘調査箇所を承認
- ・(2/22) 続櫓下石垣:大規模解体修理案の再提示⇒継続審議

【2021令和3年度 文化財修復検討委員会】

- ・(5/31) 外部補強(石垣前面押え補強)＋西面解体修理案で検討を進めることで承認
- ・(10/18) 平左衛門丸発掘調査成果の報告
- ・(2/2) 石垣耐震診断結果の報告⇒継続審議
石垣復旧措置(案)(H443)⇒継続審議
宇土櫓下空堀確認調査(案)⇒承認



宇土櫓続櫓下石垣

■今回の委員会での報告・審議事項

1. 安全対策検討について【審議】(資料3-1-1～3-1-2)

⇒安全対策の検討対象となる石垣が無いことから、石垣外部の安全対策(落石防護工)の検討は行わない

2. 重要文化財宇土櫓・続櫓周辺石垣履歴・被害状況把握図【報告】(資料3-2-1～3-2-15)

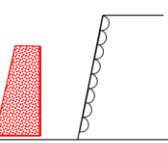
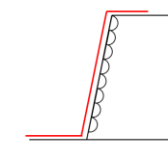
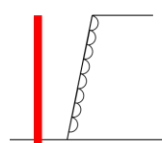
■令和4年度の審議予定

- ・宇土櫓下空堀確認調査結果報告 石垣復旧措置(案)など

〈石垣の修理検討フロー〉



落石防護柵



【重要文化財建造物下石垣の基本方針(熊本市の目標) R3.3.25委員会承認】

- ・原則、重要文化財建造物は、文化財的価値が損なわれないように建造物として健全な状態に復旧し、震災直前の利活用（来城者の立入等）の状態に回復することを目指す。
ただし、文化財的に過度な補強・改造が必要であると判明した場合は各建造物で基本方針の変更を検討する。
- ・重要文化財建造物下石垣は、平成28年熊本自身で崩壊および大きく変状し石垣解体修理を行う場合に対して、重文建造物および残存石垣を保護するために、修理範囲内で現代工法を含めた構造補強を検討する。

```

graph TD
    A[石垣からの必要離隔距離の検討] --> B{必要離隔距離の確認}
    B -- "確認できない" --> C[落石対策の検討]
    C --> D[石垣からの必要離隔距離の検討]
    B -- "確認できる" --> D
    
```

石垣からの必要離隔距離の検討

・石垣が崩落した場合に落石が考えられる距離
など

① 必要離隔距離の確認

→ 確認できない

② 落石対策の検討

・落石防護ネット
・落石防護柵
・落石防護盛土 など

